

【参考】 展示例 石垣高さ約1m

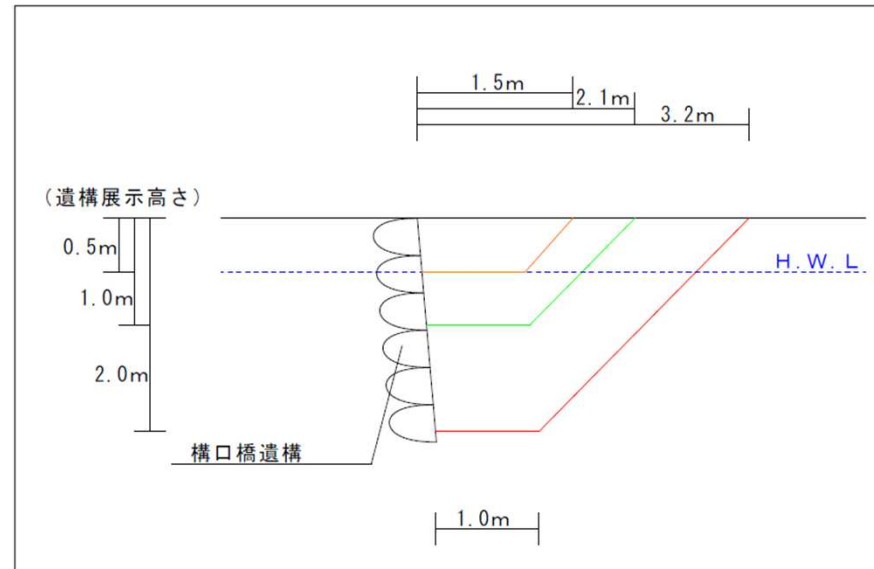


展示例 石垣高さ約2m



①遺構(石垣)を直接展示する整備(案)

(断面図)



◇石垣の安定の確保

発掘された構口橋の遺構は高さ2m程度であり、安定していれば石垣全体を展示することは可能。

◇排水処理

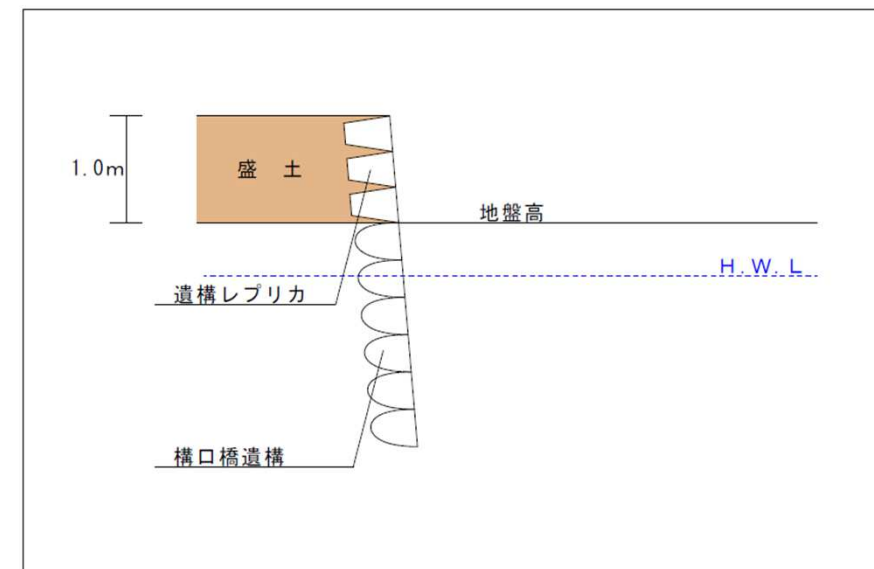
排水は隣接する大溝川へ行くことになるが、大溝川のH.W.L.(計画高水位)は石垣高さ天端より0.5m程度低い位置であり、これよりも深く展示する場合は、降雨時に石垣の一部が水没する可能性がある。

◇展示スペース

展示する遺構面が深くなるほど、平面においてはスペースが広く必要となる。石垣全体(深さ2m)を展示する場合は遺構面から約3.2mの平面スペースを要する。

②遺構(石垣)を地中に保存する整備(案)

(断面図)



◇石垣の安定の確保

遺構自体は地中に保存するため、石垣の安定は確保される。(露出して展示する場合に比べ遺構の保存状態は良好。)

◇排水処理

遺構面を掘り下げないため排水処理は不要。(表面排水のみ)

◇展示スペース

遺構部分全体も公園スペースとして活用可能。

○比較表

整備方法	遺構の見せ方	石垣の安定(保存)	排水処理・展示スペース
遺構(石積)を直接展示	・直接遺構を展示することが可能。 ※本物の遺構を展示(一般公開)することが可能。	・石垣の安定を保つことは可能。(展示高が浅いほどより安定) ※展示高が深くなれば転落防止などの対策が必要。 ※深くなるほど管理は大変	・隣接する大溝川への排水を行う。 ・展示高が深くなれば降雨時に雨水が溜る場合がある。 ・展示高が深くなるほどより広い展示スペースを要する。
遺構(石積)を地中に保存(レプリカ展示)	・直接遺構を展示することができない。 ※本物の遺構は案内板などの写真等でしか展示できない。	・地中に埋めるため、石垣の安定は保たれる。 ※保存状態も良好。	・排水は表面排水のみ考慮すればOK ・展示スペースを必要としない。 ※公園スペースが広く確保できる。